

義援金贈呈式

平成27年11月10日

H27.11.10 常総市役所贈呈式挨拶 水海道ロータリークラブ会長 海老原良夫
平成27年9月10日台風18号豪雨による水害にて鬼怒川東の市内ほぼ全域が冠水の被害を受ける大災害が発生し多くの市民が罹災しました。

水海道ロータリークラブも会員の過半数が被災しましたが、本日私たちは、甚大なる被害を受け蔵書15万冊のうち3万冊が流失した常総市立図書館復旧のための図書購入資金として金二千万円(目録)を持参いたしました。

災害発生以来今日まで高杉徹市長におかれましては復興の最前線にて陣頭指揮を執られる過酷な公務遂行のなか、私どもの為にお時間を割いて戴き、本日ここにご臨席を賜り誠に恐縮に存じます。

また、RC第2820地区役員の皆様にもご出席戴きました。

御紹介申し上げます。倉沢修市ガバナー、荒井幹事、岩田副幹事、中村第7分区ガバナー補佐、永井地区広報委員長の皆様方です。後ほどご挨拶を戴きます。

さて私自身も橋本町の八間堀川の堤防を背にした2階建て住居1階の全ての家財道具を流失し、現在は仮住まいで住宅再建やら将来の展望が開けないまま不安を抱えながらの日々を過ごしております。

が、私のみならず罹災した市民の多くが似たような現状にあるのではないかと推測されます。

水害発生から数日は避難所水海道一高亀陵会館で避難所生活を過ごし、水没した自宅の後片づけに忙殺されロータリー会長としての職責を果たし得ず、全国各地からのロータリアンからの支援の申し出に対しても丁寧な対応を取れずにおりました。

避難所にも私の携帯電話に各地RCから支援の申し出を戴きました。大変有難いことではありましたが避難所という場所を弁え、自宅が水没し、打ち拉がれ憔悴しきって避難してきている隣人の状況を勘案すれば声高に通話することは憚られることでした。

それが故の私の不適切な対応の謗りは免れませんが。

そのような状況の中、水海道クラブの理事会構成メンバーほぼ全員が罹災し機能不全に陥った危機的状況を救おうと、名乗り出た会員有志により災害復興プロジェクトチームが組織されました。

その特別チームは迅速に行動しました。しかも実に大胆に。強(したた)かな彼らは私に決断を迫りました。今年度のクラブ事業計画及び予算を白紙撤回せよと。

そしてクラブ総会は彼らの提案を全員一致で承認しました。

これにより私がRC入会以来26年間、自分の会長年度には実施しようと温めてきた構想『地域奉仕事業予算』は水泡に帰しました。

私は常総市未曾有の水害で家財も失くし、RC会長年度の事業計画の夢も失くしました。キレイさっぱり、実に見事に失くしました。

彼らの提案は、白紙撤回した予算の中から捻出し『一刻も早く罹災した仲間に救いの手を差し伸べよう』

『すぐに見舞金を贈ろう』というものでした。

早速、翌週の例会場には見舞金が用意され災害復興プロジェクトチームの面々が手分けして見舞金を罹災会員宅に届けました。

災害復興チームが次に成した仕事は何か、と問えばすなわち本日只今、高杉市長にご臨席を仰ぎ常総市立図書館の復興支援として図書購入資金を贈呈する、ということになるわけです。

私は災害復興プロジェクトチームの一員ではありませんでしたが、会長として今日の贈呈式に参加できましたことに対し、改めてチームの皆さんに感謝とお礼を申し上げる次第です。

私はこれまでチームの皆さんには直接申し上げては参りませんでしたが、チームの皆さんが図書館支援を提案してくれないものかと密かに心の中では願っていました。黙っていても会長の真の願いが通じる辺りが、水海道RCクラブの真骨頂ともいえるのでしょう。チームの皆さんは流石でした。

私事で甚だ恐縮ですが、まだ水没した自宅の後片づけに追われていた或る日、私の携帯に『本が欲しい』と電話が掛かってきました。その時私はボランティアの方々の力を借りて水没した家財道具の搬出の最中で、電話の内容を聞き取れずに、その電話は切れてしまいました。

数日後、水害を免れた私の会社栄町の平安堂店にこのようなFAXが送信されてきました。

今の私には、これに応える術が残念ながらありません。今回の水害で、自身の保存分として確保していた少量の在庫本も流出してしまいました。

今日、未曾有の災害に遭遇し、未だ復興の道のりは遠く険しいことが予測されますが今後、水海道ロータリークラブは常総市と共に一日も早い復興に向け地域の再生という直面する課題に全力で取り組んで参る所存です。

私は水海道ロータリークラブの一員でいられることの幸せと誇りを、今この瞬間、身体中に感じ、幸せな気分を満たされています。





